

1 学習に取り組んでいる主な分野

☐ 生物多様性	☐ 海洋	☒ 防災・減災	☐ 気候変動
☐ エネルギー	☐ 環境	☐ 文化多様性	☒ 世界遺産・文化財
☐ 国際理解	☐ 平和	☐ 人権	☐ ジェンダー平等
☒ 福祉	☐ 生産と消費	☐ その他（ ）	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、小中一貫教育の推進校でもあり、小学校3校と共通の学校教育目標「志を持ち、自ら考え行動できる生徒の育成」を掲げ、小学校と連携したESDに取り組んでいる。「地域とともに生きる」をテーマとした福祉学習・世界遺産学習を柱に、地域の方々と協働し、地域の宝である様々なひと・もの・ことと『関わり・つながる ESD』の実践をとおして持続可能な社会の創り手の育成を目指している。また、これらの学習を通して、安心安全で明るく元気なまちづくりを目指している。



3 特徴的な活動事例の紹介

○世界遺産学習

校区内にある世界文化遺産「宮原坑」の価値を様々な角度から学び、発信した。小学校の学習からステップアップし、その価値を深く知り、その遺産に関わった多くの人々の苦労や思いを学んだ。そして、自分たちの住む地域の宝である宮原坑や地域の人々の思いや願いを多くの人に伝えるために、資料集を作成・発表し、意見交流会を行った。また、完成した資料を発信した。

また、その活動をアシストプロジェクト活動報告会で発表し、国内の他校と交流したことで、生徒の視野を広げ、学習への取組む姿勢を前向きにすることができた。



○ シトラスリボンプロジェクト

生徒会の呼びかけで、コロナ禍でも笑顔で多様な人々を受け入れ、思いやりのある暮らしやすい社会を目指し、全校で取り組み始めた。今回で3年目となる。

医療従事者や地域の方へ心を込めて全校生徒で作成した。今回も、コロナ禍ですべての施設には配布できなかったが、生徒会役員と一部の福祉施設や地区公民館、まちづくり協議会と連携し、地域の方々に配布した。

生徒たちは地域の方々への思いを伝えることができた、嬉しそうに話していた。全校生徒で取り組むことで、地域で少しでも役に立ちたいと思い行動できる生徒が増えてきた。



○ 福祉学習×防災学習 「おたすけ手ぬぐい」から学ぶ障がいのある方との関り方

防災バリアフリープロジェクトで作成された「おたすけ手ぬぐい」を使って、障がいのある方とのかかわり方を、体験を通して当事者の方と一緒に学んだ。それぞれの障がいによって困りごとが様々であり、実際に支援者になって、「おたすけ手ぬぐい」でどのように関わったらよいのかそれぞれの立場で体験しながら考えた。

また、災害時に障がいのある方とどのようにかかわりながら避難したらよいかも考えた。また、手話を用いて助けを求める方法を学んだり、手話で会話を楽しんだりした。



3 今後の活動計画

2023年度より本格的に小中一貫教育に取り組むこともあり、9か年の流れを考慮した取組を計画している。世界遺産学習・福祉学習・防災減災学習を柱に、地域のひと・もの・ことを活用し、学校運営協議会など地域の様々な方々と連携することができるよう、様々なステークホルダーを巻き込んだ体験活動を充実させたり、積極的に交流を行う場を設定したり、カリキュラムを検討したりしている。

これらの体験活動や協働学習を通して、生徒たちが自信をもって自分たちにできることを考え、地域はもちろんのこと、広くグローバルな視点で行動化をすすめていくことができるように、取組を仕組んでいきたい。令和5年度は、隣接する三池工業高等学校（ユネスコスクール）との協働でプロジェクトを実施したり、国内外の学校と交流したりすることができればと考えている。